

# さんむのふるさと散歩

NO.56

## 戦跡めぐり 八街・豊成飛行場

今回は、終戦70年に寄せて、戦時中山武市民と関係の深かった戦跡について訪ねます。

最初は、陸軍八街飛行場です。

あららぎ館から北西方向へ8・8kmのところに、八街飛行場の碑が立っています。

八街飛行場は、昭和15年、偵察機搭乗員養成学校として開校しました。

偵察機とは、軍隊が行動を起す時に必要な情報を収集するための飛行機です。

昭和16年12月8日、日本はアメリカ・イギリス・オランダ等の連合国軍と開戦しました。

戦争緒戦は順調に作戦が推移し、日本軍は北へ南へと占領地を広げていきました。

それにつれて、八街飛行場の卒業生たちも、北はアリユーシャン諸島、南はオーストラリアまで戦闘地域全域を飛び回っていました。

戦争が長引くにつれて、ベテラ

ン搭乗員の多くが戦死したため、大量の搭乗員が必要となり、八街飛行場は規模を拡大することになりました。

また、昭和18年後半以降になると日本軍が当初占領した島々が次々に連合国軍に奪還され、日本本土が連合国軍機の空襲にさらされる危険が迫りました。

このため新たな飛行場の造成が全国各地で進められました。東金市豊成地区の飛行場もその一つです。

八街飛行場の拡張作業や豊成飛行場の造成作業には地域住民が、小学生から老人まで組織的に協力させられました。その事実が各町村役場日誌等に記載されています。

成東の島地区にある食虫群落から南に800mの水田地帯。このあたり一帯が豊成飛行場のあったところでした。

豊成飛行場が完成して数日後、B-29爆撃機の編隊が初めて東

京を空襲しました。その帰路、B-29は山武市上空で余った焼夷弾を全部ばら撒いていきました。

この行動はその後の空襲でも続き、山武市上空は焼夷弾の投下に見舞われ続けたのです。

豊成飛行場にB-29を迎撃するための部隊が配備されたのは、山武市初の焼夷弾が投下されてからほどなくのことでした。

空襲があると、豊成飛行場からは度々、飛行機が発進し、何機か撃ち落とすものの、圧倒的な数で来こうする連合国軍機の活動を制止させることは不可能でした。

そして、昭和20年2月以降、連合国軍は房総沖に空母を度々繰り出して、艦載機を発進させ、千葉・茨城県下の各飛行場を空襲し、これを迎え撃った日本軍機との間に壮烈な空中戦を展開しました。

その被害は飛行場にとどまらず、学校や鉄道もターゲットとされ、市民にも犠牲者が出ました。

そして、昭和20年8月13日、市内で戦時中最大の犠牲者を出した成東駅の空襲が起こったのです。

※引用文献 『郷土八街特別号』 他



豊成飛行場

### 平成27年度企画展 太平洋戦争終結70年展 「郷土危うし」

（空襲下の山武地域）

会期 7月4日(土)～10月25日(日)

◆講演会 7月25日(土)

午後1時30分

場所 のぎくプラザ視聴覚室

講師 真行寺重昭氏

◆ギャラリートーク 7月11日

(土)・10月24日(土)・11月7日(土)・

平成28年3月26日(土) 各日とも

午前11時～11時30分

場所 歴史民俗資料館

内容 歴史民俗資料館学芸員

による展示品の解説

※講演会・ギャラリートークとも

に事前申し込み・参加費不要

問 歴史民俗資料館

☎0475(82)2842